

令和元年度

松戸市地域環境調査報告書



長井調査員撮影



杉田調査員撮影

松戸市 環境部 環境政策課

はじめに

野鳥は自然のバロメーターともよばれ、自然の中で、他の生き物とも様々な関わりをもって生活している生き物のひとつです。人間もまたこの自然のしくみに深く関係し、自然の恵みを受けながら生活をしています。

松戸市では「松戸市環境計画」（平成10年4月策定）のなかで『めざすまちの姿』として、「①人と生きものが共存しているまち、②健康的な日々を過ごすための環境が整ったまち、③地球の環境にやさしいまち」を掲げています。

多くの野鳥を育めるような環境を守っていくことは、私たちにとって『健康的な日々を送れる、地球環境にやさしい、住みやすいまち』（松戸市環境計画に掲げた「めざすまちの姿」）となるための指標のひとつになります。

上記の『めざすまちの姿』を実現させるため、平成11年度から「地域の人達に住まい周辺の環境状況を自ら調査する機会と、地域住民が同じ目標をもって地域独自の環境作りを始めるきっかけを提供する」ための『生きもの調査』事業が実施されました。

『生きもの調査』では野鳥のほかに、蝶やトンボ、セミ、バッタなどの生息状況も調査を5年間実施しました。

平成17年度からは、調査内容の一部を見直し、対象を野鳥に絞った『地域環境調査』を平成21年度までの5年間実施しました。また、平成23年度から環境度の指標を変更しました。

また、平成27年度からは、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）第2条第1項に定める特定外来生物（以下「特定外来生物」という。）の他、調査員が興味を持った野生の生きもの（以下「その他の生きもの」という。）についても報告いただく体制としました。

『地域環境調査』事業は、調査員による調査結果を市のホームページで公表することで、市民の皆さまに身近な環境について知っていただき、環境や自然について考えるきっかけをつくることを主な目的としています。

## 目次

1. 調査目的	4
2. 調査範囲	4
3. 調査の方法等	7
(1) 調査期間	7
(2) 調査方法	7
(3) 評価方法	8
4. 調査結果 前期 (4月～9月)	11
各地区の点数	11
得点化されている野鳥の目撃された地区	12
近年の比較	18
年間	19

## 参考資料

○令和元年度における活動の実績	28
○土地利用状況	30
○特定外来生物	31
○その他の生きもの	36
○コラム	38
○地域環境調査員からの短信	40
○おわりに	53

## 1. 調査目的

松戸市で実施している地域環境調査には次のような目的があります。

- (1) 地域の野鳥を地域の人が自ら観察・調査することで、地域の環境についての関心を高めること。
- (2) 地域で観察された野鳥の変化を経年的に捉えることで、地域環境全般の総合的な評価を得ること。
- (3) (1) および (2) により、地域環境の問題点を浮き彫りにし、地域独自の自発的な取り組みの活力を高めること。
- (4) 松戸市環境計画の見直し等の総合指標として活用し、環境計画推進の実効性を向上すること。

## 2. 調査範囲

松戸市全域を図-1のように1km四方の65調査区に分け、それぞれの地区に地域環境調査員(市民ボランティア)を配置し、担当調査区域内の環境を調査します。

図-1 調査区域図

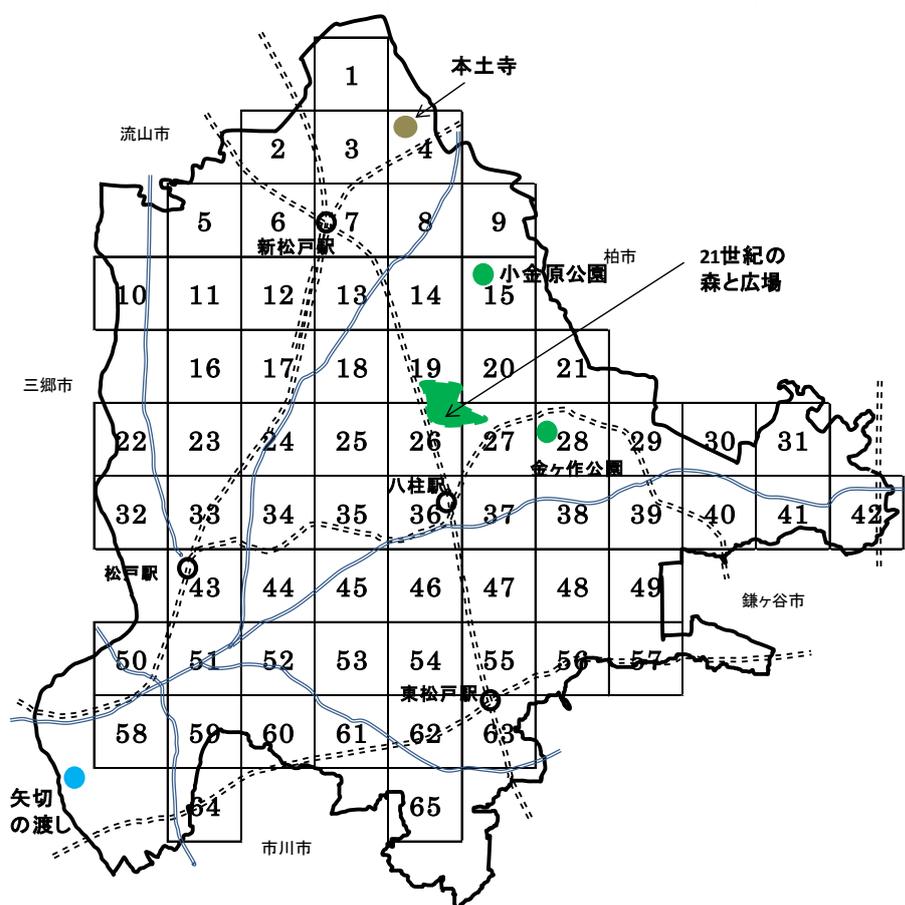


表-1 令和元年度地域環調査（各地区の主な施設・場所）

地区 No	地区名	調査場所
1	幸田地区	幸田鉄塔通り、富士川・坂川沿い、幸田第1・2・3公園、浅間公園 等
2	横須賀地区	横須賀中央公園、坂川付近、大勝院、大倉記念病院、小金高校周辺 等
3	大金平地区	東漸寺、鹿嶋神社、本土寺、中金杉、広徳寺、大谷口歴史公園、大倉記念病院 等
4	東平賀地区	根木内城跡公園、富士川周辺、本土寺参道、北小金駅北口商店街、東平賀公園 等
5	新松戸地区	新松戸西小、南小、西パーク街、サンライト街区、あおぎり公園、もくれん公園、旭町田畑、稲荷大橋、坂川放水路左岸堤 等
6	新松戸地区	2番街、8番街、新松戸中央公園、けやき通り、坂川 等
7	幸谷地区	大谷口新橋、下山公園、溜脇公園、関さんの森N02、東漸寺、山王公園、こどもの森、幸谷斜面林、新松戸第1公園、水琴橋 等
8	久保平賀地区	清ヶ丘小金公園、ユーカリ交通公園 等
9	根木内地区	根木内歴史公園及び広池学園との市境 等
10	主水新田地区	まこも池、主水新田地区、江戸川河川敷、主水池、稲荷神社、栄町・旭町田んぼ付近 等
11	旭町地区	はすだ公園、けやき公園 等
12	西馬橋地区	新坂川、相川公園、新松戸南公園、中道公園、西馬橋1～3丁目、広田公園 等
13	幸谷地区	二三ヶ丘公園、南谷公園 等
14	八ヶ崎地区	金谷寺周辺、八ヶ崎第二小学校周辺、すずめ公園 等
15	小金原地区	小金原7丁目 等
16	栄町地区	下通橋、香取神社、吉岡梨園、長津道橋(坂川)、旭小、馬橋高手前六間川、日本大学周辺 等
17	西馬橋地区	全域(ロード) 等
18	馬橋地区	中和倉公園、馬橋第二公園 等
19	八ヶ崎地区	21世紀の森と広場 等
20	栗ヶ沢地区	はくちょう公園、栗ヶ沢中、ひばり公園、貝の花小、高木小学校、千葉西病院 等
21	金ヶ作地区	金ヶ作自然公園 等

地区 No	地区名	調査場所
22	古ヶ崎地区	江戸川河川敷
23	古ヶ崎地区	古ヶ崎第二公園、栄町第二公園 等
24	北松戸地区	中台公園 等
25	上本郷地区	松戸運動公園、県立松戸高校周辺 等
26	千駄堀地区	21世紀の森と広場、香取神社周辺、松戸中央霊園 周辺 等
27	常盤平地区	21世紀の森と広場、常盤平団地 等
28	常盤平地区	金ヶ作公園、ふよう公園 等
29	五香六実地区	金ヶ作周辺 等
30	六高台地区	北丘第二公園 等
31	高柳新田地区	六高台3～6丁目、六実中央公園、グリーンベルト (桜並木)、六実中学校 等
32	古ヶ崎地区	江戸川河川敷、樋野口 等
33	根本地区	中町児童公園、松戸市役所 等
34	南花島地区	南花島公園、上本郷駅 等
35	松戸新田地区	稔台駅、松戸運動公園 等
36	日暮地区	千駄堀、駒形公園周辺 等
37	常盤平地区	牧の原付近 等
38	初富飛地地区	牧の原団地公園、調整池周辺、金比羅神社、しら かし公園、けやき通り 等
39	松飛台地区	松飛台小学校周辺 等
40	五香六実地区	元山駅、ふれあい公園 等
41	六実地区	スポーツ広場周辺、六実1～3丁目 等
42	六実地区	六実3～5丁目 等
43	松戸地区	坂川周辺、松戸中央公園、松戸神社 等
44	胡録台地区	松ヶ丘小学校周辺、神明神社 等
45	稔台地区	稔台工業団地、和名ヶ谷地区 等
46	稔台地区	河原塚小周辺
47	河原塚地区	八柱霊園
48	松飛台地区	八柱霊園
49	松飛台地区	松戸南郵便局 等
50	小山地区	江戸川河川敷、南部小学校、坂川、川端道他、角 町周辺等
51	三矢小台地区	戸定が丘歴史公園、千葉大園芸学部 等

地区 No	地区名	調査場所
52	二十世紀が丘地区	和名ヶ谷中、和名ヶ谷クリーンセンター周辺 等
53	和名ヶ谷地区	和名ヶ谷、国分川周辺等
54	紙敷地区	河原塚中学校周辺、国分川周辺、春日神社、春木川 等
55	紙敷地区	紙敷石みやの森、東松戸駅周辺、八柱霊園周辺、東松戸駅周辺 等
56	松飛台地区	松飛台駅、関台公園 他
57	松飛台地区	泉ヶ丘1号緑地
58	中矢切地区	野菊の墓、下矢切264周辺 等
59	三矢小台地区	三矢小台公園、寺沢公園、鴻之台公園、神明公園、矢切神社 等
60	二十世紀が丘地区	大橋公園、胡録神社 等
61	秋山地区	松戸向陽高校周辺 等
62	秋山地区	もえぎの風公園周辺 等
63	高塚新田地区	高塚十字路 等
64	矢切地区	矢切地区、栗山浄水場、立身台公園 等
65	高塚新田地区	東部市民センター

### 3. 調査の方法等

#### (1) 調査期間

各年度の4月～3月末までの1年間を調査期間としています。

1年間を春～夏の期間の4月～9月（前期）、秋～冬の期間の10月～3月（後期）の半年ごとに分けています。

表-2 令和元年度の調査期間

前期	平成31年4月～令和元年9月（春～夏）
後期	令和元年10月～令和元年3月（秋～冬）

#### (2) 調査方法

調査員は、各自で選んだ担当調査区内で比較的環境度の高いと思われる（公園や神社、田畑、河川敷等）場所において、可能な回数の野鳥観察を実施します。野鳥の種類が分かったものについて○を調査票に記入し、半年ごとに事務局（市）へ報告します。

(3) 評価方法

評価にあたっては、公益財団法人日本鳥類保護連盟（以下：公財）日本鳥類保護連盟）が作成した「環境ものさし」を用いて行います。

この「環境ものさし」では、どのような環境にも生息できる鳥から豊かな自然環境にしか生息できない鳥まで、指標となるもの 50 種類選り出されています。ドバトのような身近にいる鳥には 1 点、クマタカのような森林地帯にいるような鳥には 10 点など、それぞれに 1 点～10 点(表-3)の点数がつけられています。

この評価方法に基づき、観察された野鳥の合計点を算出することによって、その地域の環境度を知ることができます。

なお、「環境ものさし」では、鳥の繁殖期間にあたる春～夏（4 月～9 月）の期間が点数の対象となっています。

環境度の算出対象期間：春～夏 4 月～9 月

表-3 「環境ものさし」における野鳥の点数

10 点	クマタカ	7 点	アカゲラ	5 点	ヒバリ
9 点	アカショウビン		オオアカゲラ	4 点	コゲラ
9 点	サシバ	7 点	オオタカ		メジロ
	フクロウ	7 点	キビタキ	4 点	キジ
8 点	アオバズク		センダイムシクイ	4 点	セグロセキレイ
8 点	アオバト	6 点	ホトトギス	3 点	カワラヒワ
	ツツドリ	6 点	ヤマガラ	3 点	キジバト
8 点	クロツグミ		エナガ	3 点	シジュウカラ
8 点	コガラ		イカル	3 点	ツバメ
	ゴジュウカラ	ウグイス	コシアカツバメ		
8 点	サンコウチョウ	5 点	ホオジロ	3 点	ヒヨドリ
8 点	サンショウクイ	5 点	カッコウ	3 点	ムクドリ
8 点	ミソサザイ		モズ	2 点	スズメ
	オオルリ	5 点	カワセミ	2 点	ハクセキレイ
8 点	ヤマドリ	5 点	キセキレイ	2 点	ハシボソガラス
7 点	アオゲラ	5 点	セッカ	1 点	ドバト
			オオヨシキリ	1 点	ハシブトガラス

図-2 野鳥の点数 (出典: 公財) 日本鳥類保護連盟)



例えば、スズメを観察すれば2点になりますが、1羽でも多数観察しても同じ2点になります。また、同じ4点の枠にいるコゲラ若しくはメジロの場合には、どちらか又は両方観察しても、同じ4点のみになります。

これらの点数を合計し、点数により地域の環境度を評価します。評価の基準は点数により5段階に分かれ、環境の状態は表-4のようになります。

表-4 環境度・点数と環境の状態

合計点と環境	環境の状態
A : 121 点以上	<p>Bまでの鳥に加え、ツツドリ、オオルリ、クロツグミのような森林性の鳥が見られるようでしたら、そこは里山から奥山化へと進んだ山地的な環境と言えるでしょう。</p> <p>また、森林生態系の頂点に立つクマタカや、森に棲むカワセミの仲間であるアカショウビンが見られれば、そこは私たちの生活圏からかなり離れた、自然豊かな山地の森林です。</p>
B : 81~120 点	<p>Cまでの鳥に加え、ホトトギスやヤマガラ、エナガのようなまとまった森林に生息する鳥が見られるようでしたら、そこは丘陵や谷津田のある里山的な環境と言えるでしょう。</p> <p>もし、サシバなどが見られれば、そこは典型的な里山です。里山は、昔から人によって利用・管理されてきた場所ですが、今では自然豊かな環境として注目されています。</p>
C : 41~80 点	<p>Dまでの鳥に加え、ヒバリのように草地に生息する鳥、セグロセキレイのように水辺を利用する鳥、ホオジロやモズのように林を利用する鳥が見られるようでしたら、そこは市街地から離れた広がりのある田園的な環境と言えるでしょう。</p> <p>田園地帯は人によって作られた空間ですが、生物の生息に適した環境が比較的残っています。</p>
D : 21~40 点	<p>Eの鳥に加え、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリなど、ある程度まとまった木々があれば生息できる鳥が見られるようでしたら、そこは市街地の中でも比較的緑のある環境と言えるでしょう。</p> <p>このような緑地の多くは公園として利用されていますが、同時にそこは市街地に棲む生息空間となる重要な場所です。</p>
E : 1~20 点	<p>カラスやドバトのように様々な環境への順応力の高い鳥や、スズメのように人の生活に依存するような鳥しか見られないようでしたら、そこは市街地の中でも都市化の進んだ環境と言えるでしょう。</p> <p>多様な生物の棲む環境としては適していません。</p>

4. 調査結果 前期（4月～9月）：環境度の評価対象期間

令和元年度前期に一羽でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中、52地区でした。

なお、「環境ものさし」において点数化されている野鳥50種については、50種中36種の野鳥について報告がされました。

報告された50種中36種の野鳥を点数化した結果、市全体での平均点は47点（前期に一度でも観察された野鳥を点数化し、報告のあった調査区数で割った平均点）となり、環境度はA～Eの5段階評価のうち松戸市としての平均はCの評価となります。

地区毎に見てみますと、Bに属する81点以上120点以下となった地区は2地区あり、Cに属する41点以上80点以下となった地区は26地区ありました。

表-5に各地区の点数、表-6に野鳥の種類別に観察された地区を示しています。

表-5 各地区の点数（4月～9月）（単位：点）

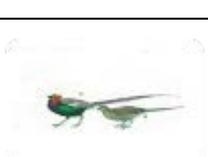
地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数
1	76	18	29	35	—	52	31
2	34	19	33	36	32	53	—
3	32	20	—	37	28	54	59
4	46	21	—	38	—	55	32
5	58	22	55	39	39	56	68
6	40	23	23	40	52	57	—
7	67	24	40	41	51	58	72
8	56	25	66	42	—	59	53
9	56	26	52	43	25	60	56
10	63	27	39	44	35	61	75
11	36	28	36	45	41	62	78
12	29	29	27	46	17	63	13
13	—	30	51	47	72	64	22
14	—	31	22	48	45	65	—
15	99	32	93	49	—	合計	2,448点
16	41	33	—	50	76	47点／C評価	
17	—	34	16	51	61		

【合計2,448点÷52地区（報告のあった地区数）＝松戸市の平均47点】

※  は、環境度がB（81点以上）の地区になります。

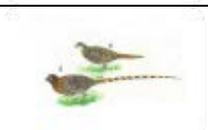
表-6 得点化されている野鳥の目撃された地区

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
1		ドバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・22・23・24・ 25・26・28・29・30・31・32・34・ 36・37・39・40・41・43・44・45・ 47・48・50・51・52・54・55・56・ 58・59・60・61・62・64
1		ハシブトカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・22・23・24・ 25・26・27・28・29・31・32・34・ 36・37・39・40・43・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・ 58・59・60・61・62・63・64
2		スズメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・19・22・23・ 24・25・26・28・29・30・31・32・ 34・36・37・39・40・41・43・44・ 45・46・47・48・50・51・52・54・ 55・56・58・59・60・61・62・64
2		ハクセキレイ	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・15・16・18・22・23・24・25・ 26・27・28・29・30・31・32・36・ 40・41・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・ 60・61・62
2		ハシボツカラス	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・15・16・18・19・22・23・24・ 25・26・27・28・29・30・32・36・ 40・41・44・45・47・48・50・51・ 52・54・55・56・58・59・60・61・ 62・64
3		カワラヒワ	1・2・5・6・7・8・9・10・11・ 15・16・22・23・24・25・28・32・ 37・39・44・45・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・60・61
3		キジバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・19・22・23・ 24・25・26・27・28・29・30・31・ 32・34・36・37・39・40・41・44・ 45・46・47・48・50・51・52・54・ 56・58・59・60・61・62・64

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
3		コシアカツバメ	
3		ツバメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・19・22・23・ 24・25・26・27・28・29・30・31・ 32・34・36・37・39・40・41・43・ 44・45・46・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・60・61・62・ 64
3		シジュウカラ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・15・16・18・19・22・23・24・ 25・26・27・28・29・30・31・32・ 36・39・40・41・43・44・45・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・ 59・60・61・62・63・64
3		ヒヨドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・19・22・23・ 24・25・26・27・28・29・30・32・ 34・36・37・40・41・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・ 58・59・60・61・62
3		ムクドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・18・19・22・23・ 24・25・26・27・28・29・30・31・ 32・34・36・37・39・40・41・43・ 44・45・46・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・60・61・62・ 64
4		キジ	1・10・22・32・50・54・58・61・ 62
4		コゲラ	1・2・6・7・8・9・15・19・24・ 25・26・27・28・32・39・41・45・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・60・61・62

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
4		メジロ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・12・15・25・26・27・29・30・31・32・36・37・39・40・41・44・45・47・48・50・51・52・54・56・58・59・60・61・62・63・64
4		セグロセキレイ	1・2・3・4・12・15・26・27・30・39・40・41・48・50・52・60・61・62
5		ウグイス	1・3・4・5・6・7・8・9・10・15・19・22・24・25・26・27・30・32・36・39・40・41・43・44・45・47・50・51・54・55・56・58・59・60・61・62
5		ホオジロ	1・8・9・10・15・22・26・30・32・40・41・50・54・62
5		オオヨシキリ	5・10・11・22・32・50・54・58・61・62
5		セッカ	1・10・15・22・32・50・58
5		カッコウ	10・32
5		モズ	1・5・7・8・9・10・15・16・22・25・26・30・32・40・41・50・51・54・58・59・60・61・62・63
5		カワセミ	1・4・6・8・9・16・19・22・32・43・50・54・56・58・61・62
5		キセキレイ	8・9・26・61・62

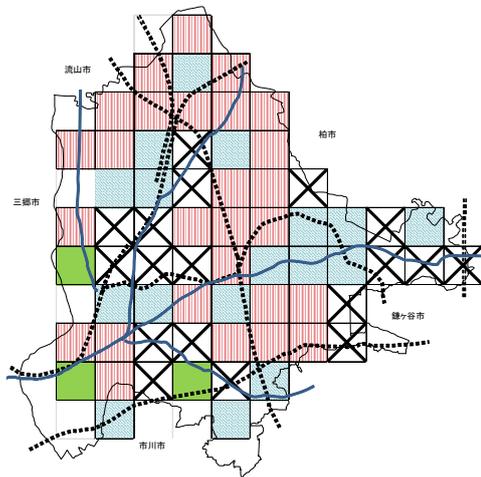
点数	写真	野鳥名	目撃された地区
5		ヒバリ	1・4・5・7・10・11・12・15・16・ 22・24・25・30・32・37・40・41・ 48・50・54・56・58・60・61・62
6		イカル	
6		エナガ	1・7・8・9・10・15・18・25・27・ 28・30・32・40・41・45・47・50・ 51・55・56・58・59・62
6		ヤマガラ	7・8・15・27・32・47・48・51・ 56・58
6		ホトトギス	25・26・32
7		アオゲラ	
7		アカゲラ	
7		オオアカゲラ	
7		オオタカ	1・10・15・32・39・50・56・58・ 60・61・62
7		キビタキ	7・15・32・47・51・56・59
7		センダイムシクイ	7・32・47・51・59
8		アオバズク	

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
8		アオバト	
8		ツツドリ	15・32・47
8		オオルリ	47・51・56
8		ミソサザイ	
8		クロツグミ	
8		コガラ	5・15
8		ゴジュウカラ	
8		サンコウチョウ	47
8		サンショウクイ	
8		ヤマドリ	
9		アカショウビン	
9		サシバ	15

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
9		フクロウ	7・25
10		クマタカ	

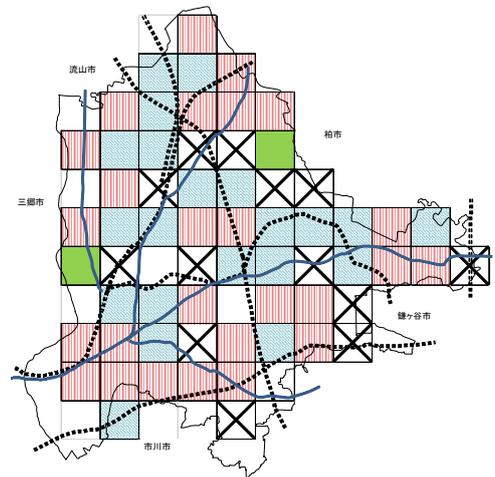
各地区の点数の比較として、平成30年度と令和元年度の各地区の状況を  
 図-3及び図-4にて、経年の比較として3年分の目撃種類数及び平均点数を表-7  
 にて示しています。

図-3 地区別点数（平成30年度）

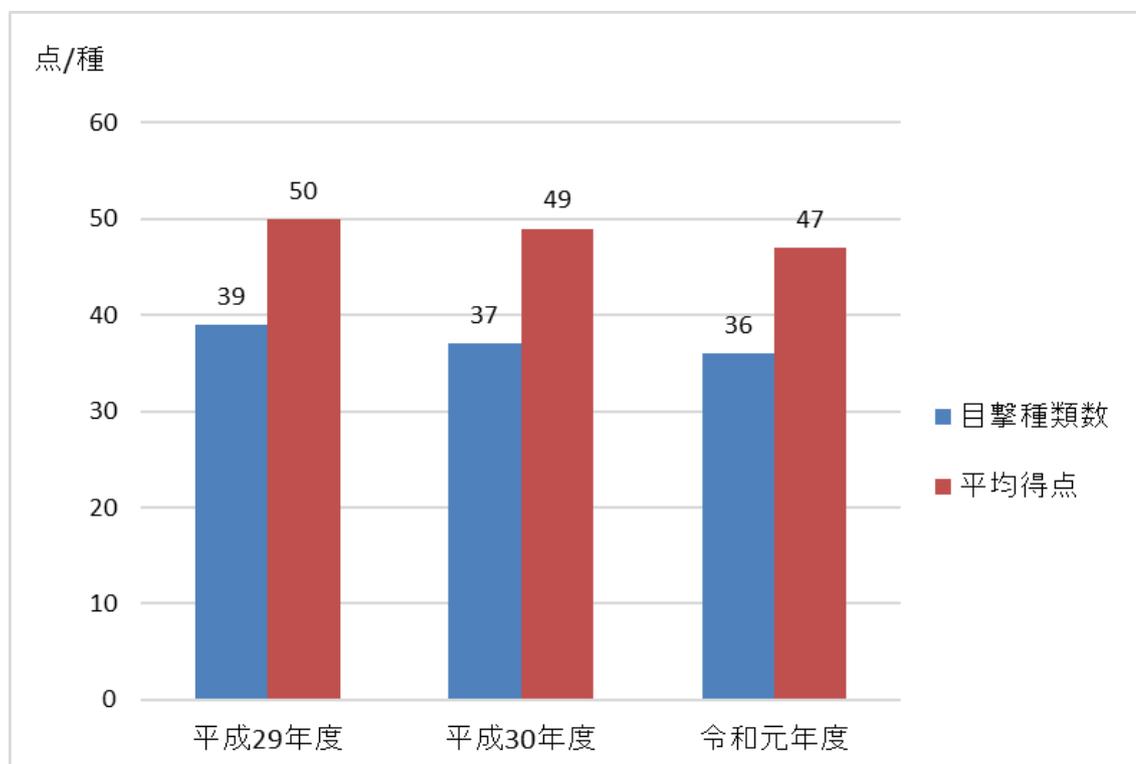
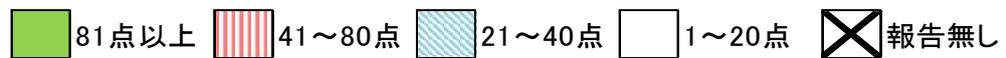


49点／環境度：C

図-4 地区別点数（令和元年度）



47点／環境度：C



※目撃種類数は、得点化されている50種になります。

調査結果 年間

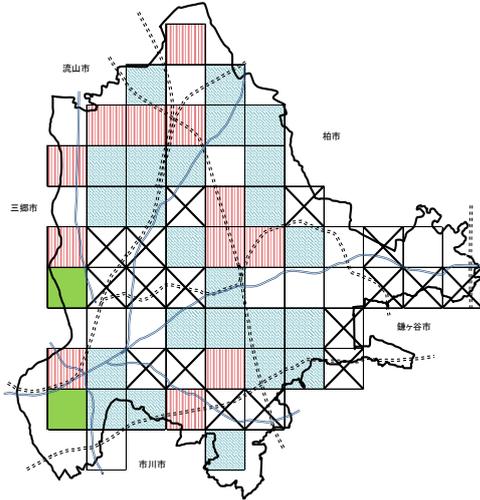
令和元年度中に一度でも野鳥の発見報告があった地区は、65 地区中 53 地区の報告があり、観察報告のあった目撃種類数は、123 種類でした。各地区で目撃された種類数を表-8 にて示しています。

表-8 各地区の目撃種類数（年間）（単位：種）

地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数
1	52	18	22	35	—	52	21
2	28	19	41	36	17	53	—
3	13	20	—	37	20	54	49
4	29	21	—	38	—	55	20
5	56	22	41	39	21	56	35
6	32	23	26	40	20	57	—
7	45	24	25	41	22	58	71
8	31	25	30	42	—	59	31
9	30	26	43	43	19	60	30
10	58	27	24	44	19	61	56
11	32	28	22	45	21	62	62
12	22	29	14	46	22	63	6
13	—	30	20	47	44	64	11
14	—	31	18	48	29	65	—
15	40	32	99	49	—	123 種類／年間	
16	28	33	—	50	50		
17	20	34	12	51	31		

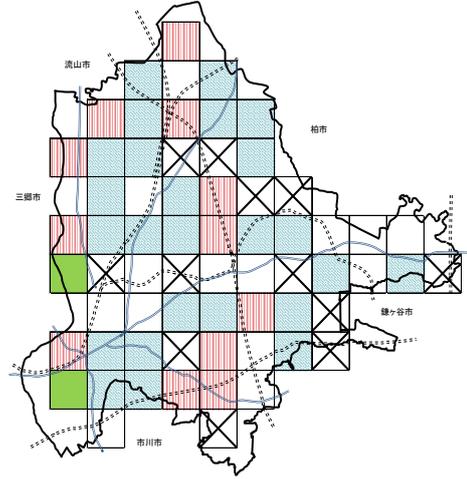
各地区の目撃された種類数の比較として、平成30年度と令和元年度の各地区で目撃された種類数の状況を図-5及び図-6にて、表-9では令和元年度における月別に目撃された種類数を示しています。

図-5 地区別目撃種類数（平成30年度）



111 種類／年間

図-6 地区別目撃種類数（令和元年度）



123 種類／年間

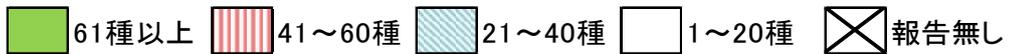
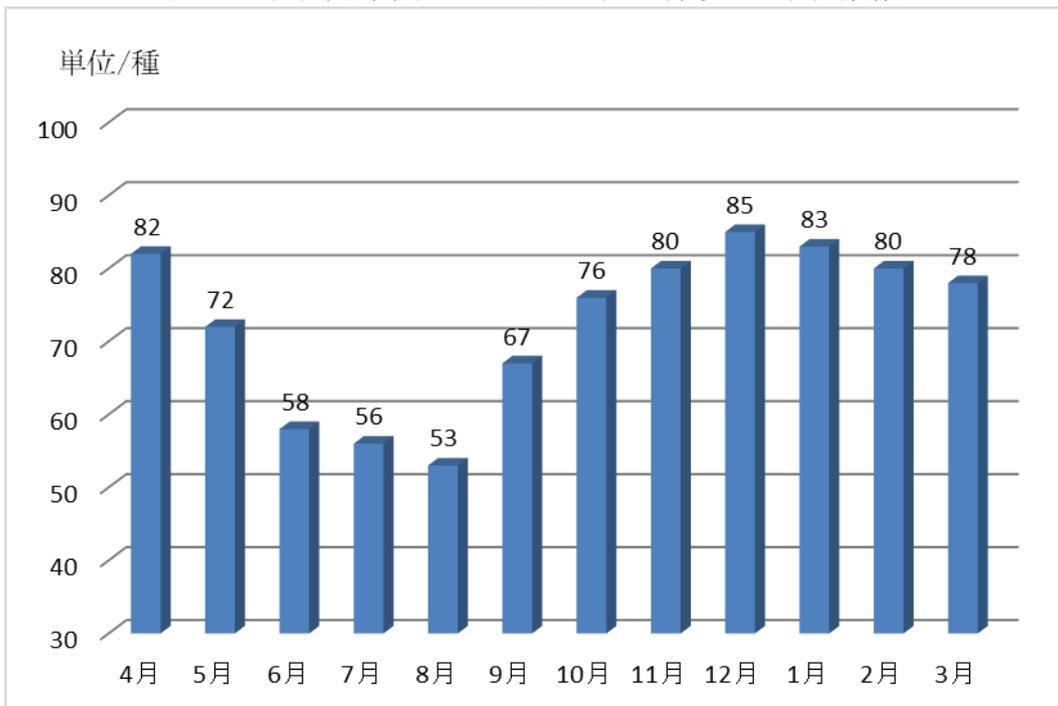
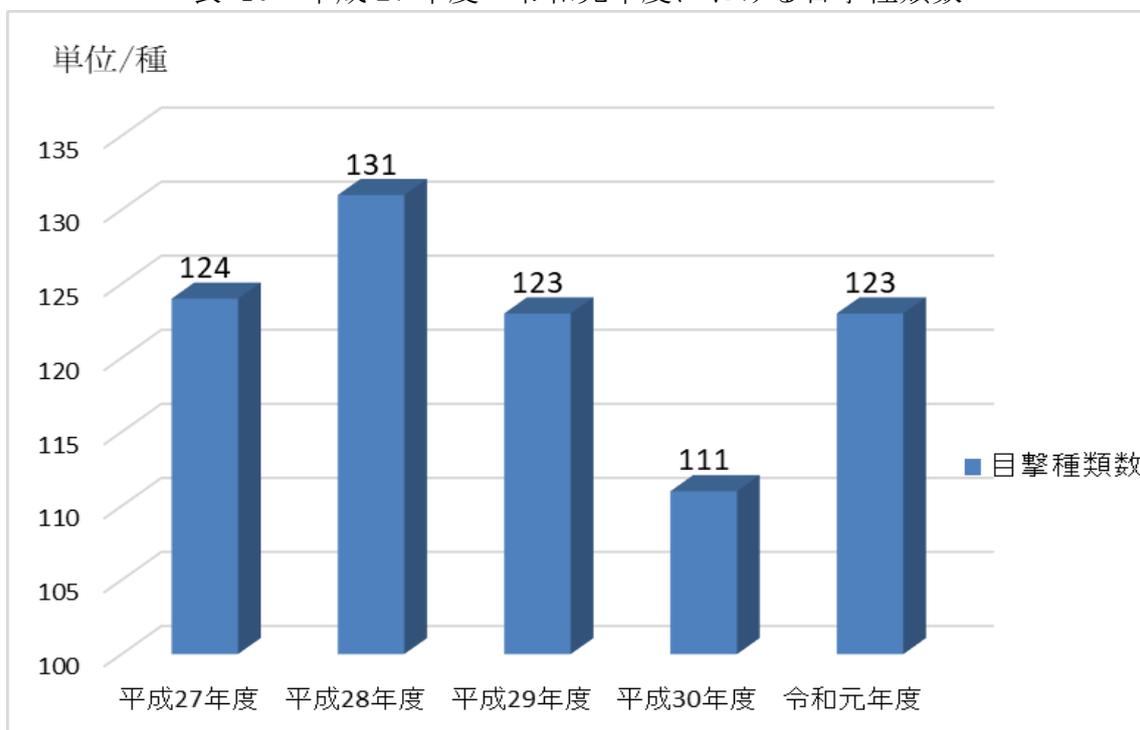


表-9 令和元年度における月毎の野鳥の目撃種類数



経年の比較として5年分の目撃された種類数を、表-10にて示しています。

表-10 平成27年度～令和元年度における目撃種類数



目撃された野鳥の種類数を比べてみると、昨年より多少、種類数が増加しています。年度によって調査員の経験や調査回数、調査員の配置された人数などに影響されると考えられます。

なお、観察された場所を見てみると河川などの水面・田畑・樹林地や街路樹、植林等の樹木が多いところなどで多くの野鳥が観察される結果となっています。

表-11 では、令和元年度に野鳥毎に目撃された地区を示しています。

表-11 令和元年度において野鳥の目撃された地区（年間）

◇以下得点の対象となっている野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオバト	3	47・48・51
アカゲラ	3	10・26・47
ウグイス	42	1・3・4・5・6・7・8・9・10・15・18・19・22・24・ 25・26・27・30・31・32・36・37・39・40・41・43・ 44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・ 60・61・62・63
エナガ	28	1・7・8・9・10・15・18・19・25・26・27・28・30・ 32・37・40・41・45・47・50・51・55・56・58・59・ 60・61・62
オオタカ	17	1・7・10・15・19・25・32・39・47・50・51・54・ 56・58・60・61・62
オオヨシキリ	10	5・10・11・22・32・50・54・58・61・62
オオルリ	3	47・51・56
カッコウ	2	10・32
カワセミ	24	1・2・4・6・7・8・9・10・12・16・17・19・22・ 26・32・43・46・50・54・56・58・60・61・62
カワラヒワ	39	1・2・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・22・ 23・24・25・26・27・28・30・32・37・39・40・41・ 44・45・47・48・50・51・54・55・56・58・59・60・ 61・62
キジ	11	1・5・10・15・22・32・50・54・58・61・62
キジバト	50	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・34・36・37・39・40・41・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・56・58・59・60・61・62・64
キセキレイ	10	1・8・9・26・32・48・56・59・61・62
キビタキ	8	7・15・28・32・47・51・56・59
コガラ	3	5・15・34
コゲラ	35	1・2・5・6・7・8・9・15・18・19・24・25・26・ 27・28・31・32・37・39・41・45・47・48・50・51・ 52・54・55・56・58・59・60・61・62・63
サシバ	1	15
サンコウチョウ	1	47

種 類	地区数	目撃された地区
シジュウカラ	51	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・ 18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62・63・ 64
スズメ	52	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・ 62・64
セグロセキレイ	28	1・2・3・4・8・9・12・15・17・19・26・27・30・ 32・34・39・40・41・46・48・50・52・56・59・60・ 61・62・64
セッカ	7	1・10・15・22・32・50・58
センダイムシクイ	6	7・27・32・47・51・59
ツツドリ	4	15・32・47・58
ツバメ	50	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・ 32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62・ 64
ドバト	51	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・22・23・24・25・26・28・29・30・31・32・ 34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62・64
ハクセキレイ	49	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・18・ 19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・ 34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62
ハシブトカラス	53	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・ 62・63・64
ハシボソカラス	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・36・39・40・41・44・45・47・48・50・51・ 52・54・55・56・58・59・60・61・62・64・
ヒバリ	26	1・4・5・7・10・11・12・15・16・22・24・25・30・ 32・37・40・41・48・50・54・55・56・58・60・61・ 62

種 類	地区数	目撃された地区
ヒヨドリ	49	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 32・34・36・37・39・40・41・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62
フクロウ	4	7・25・58・62
ホオジロ	17	1・8・9・10・15・22・26・30・32・36・40・41・ 50・54・58・61・62
ホトトギス	3	25・26・32
ミソサザイ	1	32
ムクドリ	52	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・ 62・64
メジロ	53	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・18・19・22・23・24・25・26・27・28・29・30・ 31・32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・ 62・63・64
モズ	41	1・2・5・6・7・8・9・10・11・15・16・18・19・ 22・23・25・26・27・29・30・32・36・37・40・41・ 44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・ 60・61・62・63
ヤマガラ	20	7・8・9・15・19・25・26・27・28・32・45・47・ 48・51・52・56・58・59・60・61
ヤマドリ	1	62

◇以下得点の対象となっていない野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオサギ	25	1・2・4・5・7・9・10・11・15・16・17・19・22・25・26・31・32・43・50・54・56・58・60・61・62
アオジ	30	1・6・7・8・9・10・11・15・16・18・19・22・25・26・27・32・39・44・45・47・48・50・51・54・56・58・59・60・61・62
アカハラ	16	5・6・7・10・15・22・28・32・39・47・50・51・58・59・61・62
アトリ	4	10・15・28・47
アマサギ	2	5・58
アマツバメ	1	32
アメリカヒドリ	3	54・61・62
アリスイ	1	32
イカルチドリ	2	32・58
イソシギ	7	1・5・11・32・58・61・62
イソヒヨドリ	7	6・7・10・24・32・45・50
イワツバメ	5	5・6・54・61・62
ウミネコ	1	32
エゾビタキ	6	15・32・47・48・51・58
エゾムシクイ	1	51
オオジシギ	1	32
オオジュリン	9	1・10・19・22・32・50・54・58・62
オオバン	23	1・2・4・5・6・7・10・11・12・16・17・19・22・23・24・26・32・43・50・54・58・61・62
オオムシクイ	1	32
オカヨシガモ	5	1・19・26・32・58
オシドリ	1	32
オナガ	50	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・34・36・37・39・40・41・43・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62・64
オナガガモ	7	1・19・32・46・54・61・62
カイツブリ	14	1・2・4・5・10・19・23・26・32・50・54・58・61・62
カケス	4	12・26・32・58
カシラダカ	7	7・8・9・10・12・32・58
カモメ	5	5・6・24・32・58
カルガモ	32	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・16・17・19・22・23・24・25・26・27・31・32・43・46・47・50・52・54・56・58・61・62

種 類	地区数	目撃された地区
カワウ	28	1・2・4・5・6・7・10・11・12・15・16・17・18・ 19・22・23・24・26・31・32・43・46・47・50・54・ 58・61・62
カンムリカイツブリ	12	1・5・10・16・19・22・23・26・32・50・58・62
キアシシギ	1	62
キクイダタキ	3	7・47・59
キンクロハジロ	8	1・2・5・10・32・54・58・62
クイナ	4	32・54・58・62
クサシギ	3	5・32・58
コアシサシ	4	5・10・32・50
ゴイサギ	12	1・4・5・10・16・19・25・32・58・60・61・62
コガモ	18	1・4・5・6・7・10・11・12・19・22・23・26・32・ 46・54・58・61・62
コサギ	22	1・4・5・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・ 19・32・43・46・50・54・58・61・62
コジュケイ	1	26
コチドリ	11	1・5・16・22・32・50・54・56・58・61・62
コマドリ	1	47
コムクドリ	6	5・32・47・48・61・62
ササゴイ	2	5・32
シメ	21	7・8・10・15・18・19・24・25・26・27・28・32・ 47・48・50・51・54・55・56・58・59
ジョウビタキ	37	1・5・6・7・8・9・10・15・17・19・22・25・26・ 27・29・31・32・36・37・39・41・43・44・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・60・61・62
シラサギ	1	58
シロハラ	18	5・7・15・25・26・27・28・32・44・47・48・51・ 56・58・59・60・61・62
スズガモ	6	1・6・22・23・32・58
セイタカシギ	1	32
セグロカモメ	5	5・10・22・32・50
ダイサギ	22	1・4・5・6・7・8・9・10・11・19・22・23・26・ 32・43・50・54・56・58・60・61・62
タゲリ	5	5・10・11・32・58
タシギ	7	1・5・16・32・54・61・62
タヒバリ	9	1・5・10・23・32・54・58・61・62
チョウサギ	7	2・5・10・11・32・54・58
チョウゲンボウ	14	5・7・10・11・18・22・32・48・50・55・58・59・ 61・62

種 類	地区数	目撃された地区
ツグミ	43	1・2・4・5・7・8・9・10・11・15・16・17・18・ 19・22・23・24・25・26・28・30・31・32・36・37・ 39・40・41・43・44・45・46・47・48・50・51・52・ 54・56・58・59・61・62
ツミ	9	5・6・7・32・37・47・50・52・59
トビ	3	32・50・56
トラツグミ	3	7・32・47
ニシセグロカモメ	1	32
ノスリ	7	10・19・32・58・60・61・62
ノビタキ	2	5・32
ハイタカ	1	32
ハシビロガモ	5	32・46・54・61・62
ハヤブサ	7	2・22・32・58・60・61・62
バン	9	1・4・19・32・50・54・58・61・62
ヒドリガモ	16	1・2・4・5・6・10・19・22・26・32・46・50・54・ 58・61・62
ビンズイ	3	15・32・47
ベニマシコ	2	10・32
ホオアカ	1	32
ホオジロガモ	1	58
ホシゴイ	1	1
ホシハジロ	11	1・5・10・19・23・24・32・54・58・61・62
マガモ	10	4・11・19・26・32・46・54・58・61・62
マヒワ	1	47
マミチャジナイ	1	47
ミコアイサ	1	19
ミサゴ	3	10・32・50
ムナグロ	6	5・10・11・22・32・58
ユリカモメ	14	2・5・6・7・10・11・12・16・22・23・24・32・50・ 58
ルリビタキ	2	7・26

## 参考資料

### ○ 令和元年度における活動の実績

#### 第1回松戸市地域環境調査研修会

日付 平成31年4月19日(金)

場所 江戸川河川敷

内容 野鳥観察

参加者 32名



#### 第2回松戸市地域環境調査研修会

日付 令和元年10月7日(月)

場所 京葉ガスF松戸ビル 5階 会議室

内容 平成30年度報告会及び講演会「野鳥観察のためのポイント」

講師 公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井 幹氏

参加者 26名



第3回松戸市地域環境調査研修会  
日付 令和元年11月27日(水)  
場所 21世紀の森と広場  
内容 野鳥観察  
参加者 22名



令和2年度松戸市地域環境調査員新規登録希望者向け説明会  
日付 令和2年2月17日(月)  
場所 松戸市役所 別館 地下1階 研修室  
内容 松戸市地域環境調査の概要説明  
参加者 7名



## ○土地利用状況

土地利用状況調査は、平成17年度から平成21年度にかけて、調査員自身に野鳥観察とは違った目線で、地域の環境を知ってもらえるのではないかという目的から実施していましたが、平成23年度からは都市計画基礎調査より土地利用現況を掲載しています。

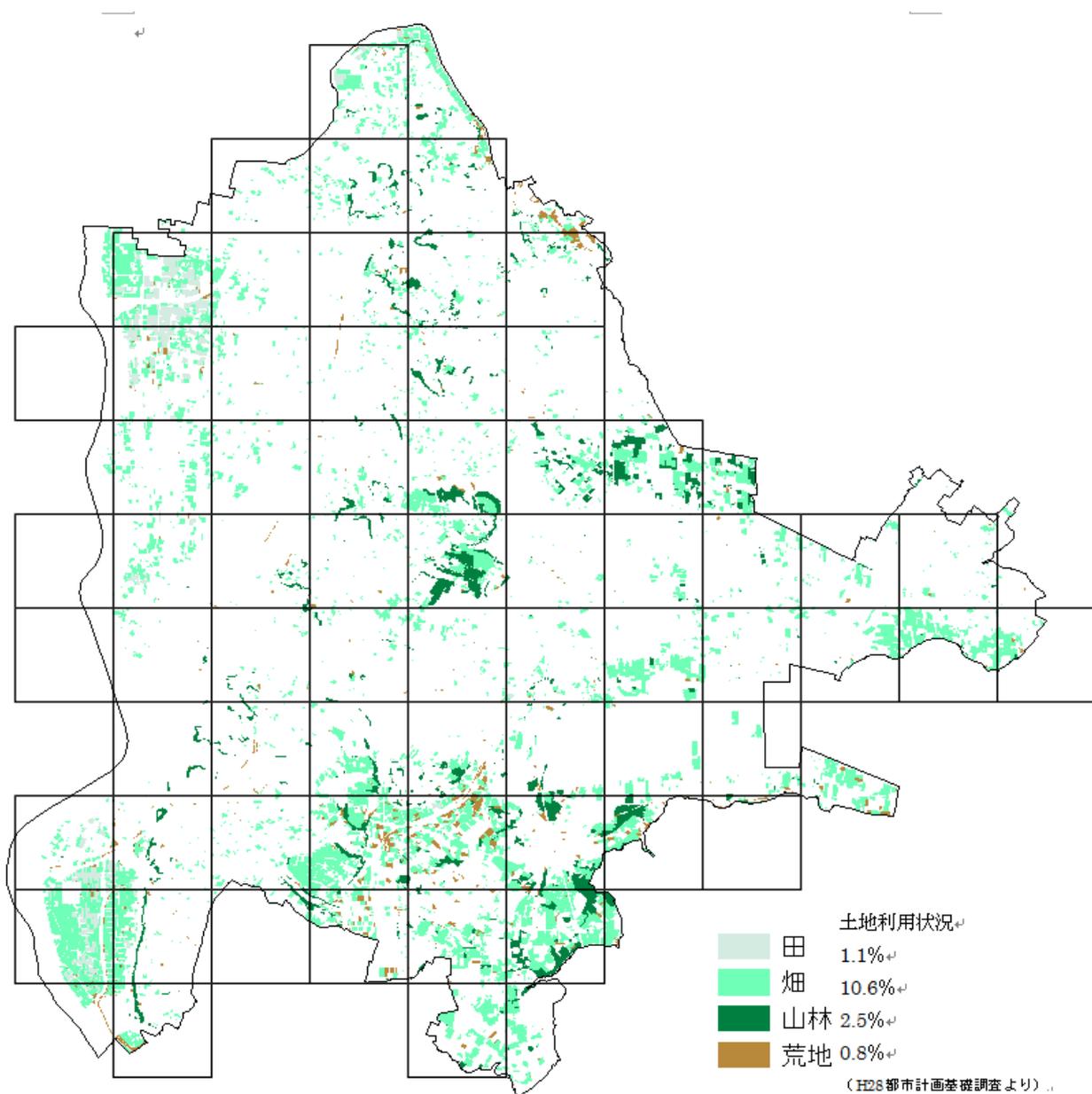


図-8 土地利用状況

## ○特定外来生物

平成 27 年度から地域環境調査などでの活動において、特定外来生物やその他の生きものを目撃した際には、調査員の方に報告をお願いしているところです。

「**特定外来生物**」・・・外来生物（海外が起源のもの）のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省において指定されたものをいいます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。また、原則として飼育・栽培・保管・運搬することが禁止されています。

目撃した場合には、写真を撮影の上、環境政策課に連絡いただくか、松戸市ホームページに専用のフォームがありますので、必要事項を入力の上、投稿してください。

専用フォーム

【松戸市 TOP⇒くらし⇒環境⇒自然環境⇒外来生物⇒特定外来生物の目撃情報投稿フォーム】

アドレス：

[http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/mokugeki\\_jyuhou.html](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/mokugeki_jyuhou.html)

(1) 市内で確認されている特定外来生物（一部抜粋）

・アライグマ



ペットとして飼われていたものが野生化した結果、生態系や農作物などに深刻な被害を与えています。見かけによらずどう猛な性格をしています。

大きさ	体長 40～60 cm、尾が 20～40 cm 全体で 60 cm～1m位になります。
特徴	尾のしま模様が最大の特徴です。模様がなければ違う生きものです。

・カミツキガメ



大型に成長し、様々な生物を捕食します。また、噛む力が強く、人間の身体への被害も想定されます。

大きさ	背甲長 50 cm 体重は約 30 kgにも達する。
特徴	鋭い口と爪、甲羅に 3 本の隆条（キール）、尾は 1～3 列の鱗状

・オオキンケイギク



5月～7月頃にかけて咲き、道端や河原などに生息します。強靱なため一度定着すると他の在来植物などの生育場所を奪ってしまいます。

大きさ	草丈は 30～70 cm程度
特 徴	黄橙色の花びら、花びらの先端がギザギザ

・アレチウリ



一年生のつる植物で、開花期は8月～10月になります。全国の河川等で繁茂し、他の植物がほとんど生育しないなどの恐れがあります。

大きさ	長さは、数メートルから十数メートルに及ぶ
特 徴	葉がハート形の手のひらサイズ、ツルからは3～4本の巻きひげ

(2) 千葉県内で確認されている特定外来生物

今のところ市内で確認はされておりませんが、近隣市では確認されたものもいます。定着等を防ぐためにも調査の傍ら、目撃した場合には、情報提供をお願いいたします。

千葉県内で確認記録のある特定外来生物一覧 (平成 31 年 3 月 31 日 現在 43 種)						
哺乳類	1	アカゲザル	昆虫類	25	アカボシゴマダラ ★	
	2	アカゲザル交雑種		26	セイヨウオオマルハナバチ	
	3	マスクラット		27	アカカミアリ	
	4	アライグマ ★		28	ヒアリ	
	5	キョン	甲殻類	29	ウチダザリガニ	
鳥類	6	カナダガン	クモ類	30	セアカゴケグモ	
	7	ガビチョウ	軟体動物	31	カワヒバリガイ	
	8	カオグログビチョウ		32	オオキンケイギク ★	
	9	カオジログビチョウ		33	ミズヒマワリ	
	10	ソウシチョウ		34	オオキンゴンソウ	
爬虫類	11	カミツキガメ ★		植物	35	ナルトサワギク
	12	ハナガメ			36	オオカワヂシャ
	13	ハナガメとニホンイシガメの交雑種			37	ナガエツルノゲイトウ ★
	14	ハナガメとクサガメの交雑種			38	アレチウリ ★
両生類	15	ウシガエル ★			39	オオフサモ ★
魚類	16	オオタナゴ			40	オオバナミズキンバイ
	17	コウライギギ	41		ボタンウキクサ	
	18	チャンネルキャットフィッシュ	42		アメリカオオアカウキクサ	
	19	カダヤシ ★	43		ナガエモウセンゴケ	
	20	ブルーギル ★				
	21	コクチバス				
	22	オオクチバス ★				
	23	ストライプトバス				
	24	ショートノーズガー				

★市内で確認しているもの

「令和元年度千葉県環境白書」参照

### (3) 近年話題になった特定外来生物

松戸市内では確認されていませんが、近隣市や近隣の県等で確認されています。

- ・ヒアリ（千葉県内確認あり）



南米中部原産で、日本には港湾などのコンテナに紛れるなどして見つかっています。攻撃性が強く、巣などに刺激を与えると集団で襲いかかります。

大きさ	2.5mm～6mm程度 体の色は全体的に赤茶色
特徴	背中に2つのこぶ。
備考	在来のアリの中にも体が赤茶色のアリはいます。赤茶色だからといって必ずしもヒアリとは限りません。

- ・セアカゴケグモ（千葉県内確認あり）



地面や人工物の裏など日当たりの良い暖かい場所に営巣します。攻撃性はありますが、むやみに近づくと噛まれる恐れがあります。

大きさ	メスは大きさが1cm程度、脚を広げると約3cm。オスはその半分
特徴	メス：背中に縦に赤い斑紋有り。 オス：斑紋無し。

## ○その他の生きもの

地域環境調査では、先に挙げた特定外来生物の他、調査員の方が興味を持った生きものなどについても報告をいただいているところです。

調査の傍ら、気づいた生きものや珍しい生きものがありましたらご報告いただいています。

### <トンボの目撃情報>

5 地区	シオカラトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・アキアカネ
7 地区	シオカラトンボ・ギンヤンマ・アキアカネ
39 地区	オニヤンマ・アカトンボ
43 地区	ハグロトンボ

### <蜂の目撃情報>

5 地区	ハナバチ・セイヨウミツバチ
7 地区	クマバチ・アシナガバチ・セイヨウミツバチ・ミツバチ

### <蝶の目撃情報>

25 地区	ツマグロヒョウモン
5 地区	モンシロチョウ・モンキチョウ・ナミアゲハ・アオスジアゲハ・クロアゲハ・アカタテハ・ヤマトシジミ
7 地区	ナミアゲハ・アカタテハ・ムラサキシジミ・ベニシジミ・ヤマトシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ・オオスカシバ・アキアカネ・アカボシゴマダラ・キチョウ

### <セミ類の目撃情報>

36 地区	ミンミンゼミ
5 地区	ミンミンゼミ・ニイニイゼミ・アブラゼミ
6 地区	ミンミンゼミ
7 地区	ミンミンゼミ・アブラゼミ・ツクツクボウシ

〈その他生きものの目撃情報〉

5 地区	カノコガ・クワガタ・エンマコオロギ・ニホンアマガエル・ウシガエル・ノウサギ・トノサマバッタ・ツリアブ・イエバエ・キンバエ・ナミテントウ・ミシシippiaアカミミガメ
7 地区	ツチイナゴ・ツリアブ・ハナアブ・ナナホシテントウ・ガガンボ・エンマコオロギ・ノコギリクワガタ・トカゲ・イエバエ・キンバエ・ユスリカ
15 地区	ハクビシン
29 地区	カナヘビ・ヤモリ
36 地区	アブラコウモリ・オンブバッタ
37 地区	ヤモリ・ハクビシン
39 地区	トカゲ・ハクビシン・ゲジゲジ・アオダイショウ・カマキリ・オンブバッタ
40 地区	コウモリ
54 地区	ミシシippiaアカミミガメ
59 地区	ネズミ
61 地区	タヌキ

○コラム

このページでは、調査員の方から報告のあった野鳥の写真を紹介します。  
(一部抜粋)



撮影者：吉田調査員

撮影者：村松調査員



撮影者：塚原調査員



撮影者：塚原調査員

撮影者：植田調査員



撮影者：吉田調査員



○地域環境調査員からの短信 (一部抜粋)

地域環境調査では年2回(半年に1回)、調査員が事務局へ調査票を提出していただきます。その中で調査員から市へ短信が寄せられることがあり、身近な環境の変化や出来事を報告していただいています。ここでは、それらの一部をご紹介します。

令和元年度調査員短信(前期)

地区	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/8 AM1:30 頃、坂川八木乃橋近くの鉄塔脇の畑で、雌のキジを見て驚く。更に雄のキジが悠々と100m位歩くのを見た。(過去にもこの場所で何回かキジを見ている。ここがビューポイントである)</li> <li>・5/3 坂川幸田橋の下で鯉10匹が、1匹の鯉の周りを身をくねらせていた。更に上流でもいくつかの群が同じ仕草が見られた。春の鯉による恋か、種の保存の本能か?</li> <li>・6/22 AM11:30 頃、思いがけず富士川3号橋の手前でカワセミが水面すれすれに上流に向かって飛んでいるのを見た。5分位したあと、またヨシに留まるのが見られた。自分でカワセミを発見できたのが初めてであり、うれしかった。</li> <li>・6/28 坂川の大金平大橋上流ではカワウが珍しく仲良く2羽並んで泳いでいた。</li> <li>・7/13 今夏の坂川土手は、春早く雑草荊をされたせいか、雑草の種類の多様性がみられず、単調であった。例年のススキ、オギ、スイパ、アカツメグサ、エノコログサ類等がまったく少なく感じられた。</li> </ul>
1	<p>9/28 富士川で初めてホシゴイを見つけました。小魚を狙っているようで、じっと川面の水が落ちるところにいました。</p>
5	<p>《鳥》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①イワツバメ 4/11 例年どおり坂川・差向橋に飛来、三組のペアが子育て～8月末撤去。</li> <li>②ツバメ 4/15 新松戸西小付近で初認。8月中は見られたが9月には不在。</li> <li>③スズメ 7月に若の群れ、50羽集団で採餌～この地域は台風15号襲来以前に稲刈りの完了した田圃に100羽が集団で採餌。</li> <li>④ムクドリ 5/24には餌運びするのが見られた。7月中以降、若鳥50～80羽が群れて採餌するのが田畑で見受けられた。</li> <li>⑤ムナグロ 4/9 新松戸西小付近の田圃に飛来、最大35羽を確認したが5月中旬以降は未確認。</li> <li>⑥ツグミ 4/17 区域内で14羽を確認したのが最後で帰国した様子。</li> <li>⑦チョウゲンボウ 4/17 視認。幸運にも9/30 新松戸西小付近で低空飛行していくのをジックリ確認。食事がすんでいたのか、真下にドバトが居ても見向きもせずに飛び去った。</li> <li>⑧ツグミ 5/17・5/21に♀1羽を確認後は帰国した様子。</li> <li>⑨アマサギ 5/14 今季1羽を初認、5/16、2羽を視認するも以後は未確</li> </ul>

認。

- ⑩オオヨシキリ 5/14に1羽を初認～6月まで囀りを聞かせてくれた。
- ⑪カルガモ 今年は見かける機会が少なくなり、子連れも見られなかった。
- ⑫オオバン 4/11坂川放水路にて最大4羽を確認。以後は確認できず。
- ⑬ハクセキレイ ここ数年、絶対数が大幅に減少傾向にあると思われる。出現頻度が少なすぎる。
- ⑭イソシギ 昨年までは河川敷の水辺を採餌して歩く姿がよく見られ、釣り人が居ても平気で動きまわっていたが、本年は出現頻度が少なかった。台風15号通過後～9/14に水浸しの田圃から飛び立つのを見かけビックリ！
- ⑮クサシギ 9/24アジサイ公園南西側にある農家で1羽を視認。タシギ9/30新松戸西小学校西側の田圃で2羽を視認。特徴のある鳴き声「ジェッ」も聞こえた。
- ⑯ノビタキ 9/30坂川放水路・仲道橋左岸付近の耕作放棄地内～水路沿いの葦原にて♂1羽を視認。
- ⑰カワセミ 今年は全く見られず残念！
- ⑱オナガ この半年間、観察に出歩く度に毎回観察できたのは珍しいと思う。避暑に出かけるのか？夏場に観察できなくなる鳥たちがいるのに。
- ⑲モズ 高鳴きを9月中旬以降に確認。

《草花》

- ①見受けられる草花多数～4月シモクレン・ヤマブキ・ヤエザクラ・アケビ・エゴ・ミカン・タンポポ類・ハルノノギク・ヘラオオバコ・アカツメクサ・チガヤ・ヤセウツボ・ハハコグサ。5月キハナショウブ・コバンソウ・チガヤ・ツユクサ・シロツメクサ・ヒルガオ・クワ。5月中に咲き始めたツユクサは次々に花を咲かせ続け、台風15号通過後も稲刈りの完了した田んぼの両側に咲き、素敵な花道に！9月以降「青いツユクサ」と競うように一群の「白いツユクサ」が存在感を強調！6月ニワタバコ・ヤブカンゾウ・キハダメギク・ワルナスビ・サルスベリ。
- ②ヒガンバナ 9/24坂川・差向橋下流の兩岸河川敷に植えられたのが咲きだし、9/30には満開に近づいてきた。農家の庭先などでは数は少なくとも日当たりの良い所では満開になっているところもある。
- ③狂い咲き2種を確認、ソメイヨシノ 9/30けやき通りに近いサンライトパストラル2番街で視認、台風15号で葉を落とされたのが原因か？ハナズオウ 9/30中央パークマンションの裏手で沢山の花を咲かせていたが、これも台風の影響か？

《昆虫・爬虫類》

- ①上記花の蜜を求め、モンシロチョウ・モンキチョウ・ナミアゲハ・アオスジアゲハ・クロアゲハ・ハナ蜂・シオカラトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・アキアカネ・カノコガ、9月に入りクワガタムシ・エンマコオロギ等が見受けられた。クワガタムシはこの付近では珍しい。
- ②4月には河川敷の土手道でセアカケバエの大乱舞が見られた。
- ③ニイニイゼミ、例年ならもっと早くからきこえるはずなのに、7月中

	<p>旬になってから確認できた。夏の間、朝から晩まで聞こえていたアブラゼミ・ミンミンゼミの大合唱も台風 15 号の通過に合わせたかのようにアブラゼミ～ミンミンゼミの順に減少し、9 月末にはツクツクホウシの声だけが時折聞こえるだけとなった。</p> <p>④ニホンアマガエル 9/27 坂川放水路・稲荷橋付近の堤防道路では今季初認。ニホンアカガエル・ウシガエルはよく鳴いているし、姿も見られるがアマガエルに出会えたのはラッキー！</p>
5	<p>・新松戸西小付近の水田ではゴールデンウィーク前後にムナグロの群れが飛来し、採餌する姿が確認される。</p> <p>・ここ数年、弐番街緑地でツミの営巣・繁殖を観察しているが、本年も確認。小鳥（スズメと思われる）やセミ（ミンミンゼミ）を食べている。マンションベランダでペリットも観察される。</p>
5	<p>ここ数年、弐番街緑地でツミの営巣・繁殖を観察しているが、本年も確認。小鳥（スズメと思われる）やセミ（ミンミンゼミ）を食べている。マンションベランダでペリットも観察される。</p>
6	<p>・4 月 お隣との続きがあるせいか、アカハラが 3 度ほど庭で餌を咬むように歩きまわった。曇りで湿り気のある隅を好むように思われた。</p> <p>・8 月庭前のアメリカフウ通りの 2-3 本がスズメの宿になった。どこにこれほどの数のスズメがいたのかと思う程 100 羽～200 羽～300 羽かと思われ 4-5 日で静かさが戻った。</p> <p>・9 月 15 号 19 号と台風の影響は見受けられなかったが、遅いキンモクセイが急に香りだしました。</p>
7	<p>・7 区は溜上の森～東漸寺へ抜ける農耕地・斜面のあった栗林で樹木が皆伐され、住宅地に大変身、自然の悪化が進んでいる。</p> <p>《鳥》</p> <p>①ウグイス 7/21 7 区にて 4 羽の鳴き声確認できたが以降は未確認。</p> <p>②キビタキ 4/23 2 羽を初認。囀りもきかれたがその後は未確認。</p> <p>③センダイムシクイ 4/23 初認、以後未確認。</p> <p>④シロハラ 4/16・23 に各 1 羽を確認、以後未確認。フクロウ 5/13 関さんの森・樹上に若 1 羽を確認、14 日若 2 羽、15 日 親 1・若 1 羽 16 日 若 2 羽を確認、以後は未確認。ここ数年間、「フクロウの子育て」は聞いていなかったのビックリした！偶然、ご近所にお住いの方と会話する機会があり、「夜、風呂に入っていると鳴き声が聞こえるのが良かった！」との事。</p> <p>⑤ツグミ 4/23 10 羽を最終確認。⑥モズ 台風 15 号通過後「♂モズ雄君」&amp;「♀モズ子さん」がそれぞれに「高鳴き」するのを視認。</p> <p>《草花》</p> <p>①草花 ウラシマソウ・ジロボウエンゴサク・ホタルブクロ・クサノオウ・ムラサキケマン・シャガ・スイカズラ・オオマツヨイグサ・カンナ・ネジバナ・ヤブカンゾウ・ミズヒキソウ・チダケサシ・etc.. オオセキショウモ 9/27 新坂川の水面を覆うこの水草（外来種）が沢山の白い花を咲かせていたが、昨年よりも花が少ない。「モ」は多いが花が少ないのは水質の悪化？</p> <p>②樹木 ヤマブキ・ニワトコ・アオキ・ウグイスカグラ・キイチゴ・グ</p>

	<p>ミ・スイフヨウ・ネム・エゴノキ・ジズキ・ヤマボウシ・シモクレン・ドウダンツツジ・etc. 東漸寺・ヤエザクラ 4/23 まで満開状態を維持。ネムの花、4 月初旬から咲き始めたが、異常気象のなせる業か？ 5 月には満開となり、一度は無くなった筈なのに昨年同様、9 月にも「再度満開」となりビックリ！ 台風 15 号により、関さんの森では直径 20℃以上のスギなど数本の倒木はあったが伐採により道路は直ちに確保された。竹林は竹が倒れ込んだまま 9/27 現在未だ未整理の状況。</p> <p>《昆虫類》</p> <p>①4/16 にツチイナゴが出現！</p> <p>②4 月～9 月 ツリアブ・ハナアブ・ナナホシテントウ・ガガンボ・クマバチ・アシナガバチ・ナミアゲハ・アカタケハ・ムラサキシジミ・ベニシジミ・ヤマトシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ等が見られた。7 月にはベニシジミは見られなくなった。</p> <p>③8 月にはエンマコオロギ等もよく鳴きだしたが、台風 15 号通過後は特に数が増えた様子。</p> <p>④9 月の台風 15 号通過後はアブラゼミの急減に続きミンミンゼミも減少。ツクツクホウシの声が目立つが、ヒグラシは皆無？</p> <p>⑤9 月に入りオオスカシバが急増、アキアカネ・シオカラトンボの帆掛け船がよく見られた。</p> <p>⑥9/27 に新坂川ではギンヤンマの回遊も見られ、関さんの森ではアカボシゴマダラ・キチョウも。</p> <p>⑦ノコギリクワガタ 9/28 新坂川の近くで偶然発見、ひっくり返った状態でもがいているのを助けて？近くの木に止まらせた。この付近でクワガタ類を見たのは久しぶり。</p> <p>《その他》</p> <p>トカゲ 4/16 ラッキーなことにトカゲと遭遇、その場所を通るたびに注目するのだが再会不能状態。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、用水路や田圃などでの除草はあまり認められなかったが、オオヨシキリは水辺公園の一箇所のみで囀っていた。</li> <li>・不思議なことにタシギは一度も認められなかった。</li> </ul>
15	小金原 6-9 街区にて 6 月 27 日 AM6 時頃、ハクビシンを一瞬見かけた。
18	4/23 エナガ 6 号線付近、中根寺付近川沿いの枝に出てきた。この辺では非常にめずらしかった。
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/4 江戸川河川敷の木にカラスの巣があり、ハシボソカラスが座っていた（4/19 にも）</li> <li>・4/22 河川敷のグランドゴルフ場脇を通ると、モズの♂♀がキチキチキチキチと鋭い声で鳴いた。立ち止まるとさらに周りを飛び回って警戒していた、近くに巣があるようだ。</li> <li>・5/4 古ヶ崎の水田でムナグロを 4 羽確認した。6 時前には姿がなかったが 8 時には水の張られた水田（苗はまだ植わっていない）にたたずんでいた。河川敷からはオオヨシキリの囀りも聞こえてきた。</li> <li>・5/31 河川敷でスズメの家族群が飛び回っていた。</li> <li>・7/10 アシ原で盛んに囀っていたオオヨシキリの声があまり聞こえ</li> </ul>

	ず、アシの茂みからグエグエという声が聞こえた。雛の声か？尾の短いツバメの幼鳥の姿もみられた。
25	今年は9月の終わりに近づいて、ツマグロヒョウモン（幼虫）が増えた。スマレの葉以外にハコベの葉を食べているのを見て驚いた。
29	昆虫は、見られる種類が減っている。鳴く虫も減っている。金へび、ヤモリは夏の間見られた。
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も3月のツバメを見ると同時に今までいた冬鳥は突然姿を消した。</li> <li>・江戸川の河川敷は猛禽の種類が増え、オオバン、カイツブリ等水鳥がよき餌食になり死骸が時々見られる。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/22 今年初めてオオヨシキリの囀りを聞いた。</li> <li>・5/4 河川敷の小道を歩いていると、キチキチキチキチと鋭い声がすぐそばで聞こえた。10mほど前の柳にとまっているモズ♀が警戒していた。周りをよく探すと巣立ちしたばかりと思われる雛を発見した。静かにしていたほうが見つからないのに、と思った。</li> <li>・7/10 江戸川の中州にコチドリの成鳥6羽、幼鳥2羽が歩き回っていた。数年前まではこのあたりでもコチドリが鳴いていたが、このところは時々みかけるだけで、営巣していないようだ。どこかで繁殖したものが立ち寄ったと思われた。</li> <li>・7/10 耕されたコスモス畑で40羽ほどのカワラヒワの群が採餌していた。幼鳥も混じっていた。</li> <li>・8/25 河川敷の林で7～8羽のエナガの幼鳥と3～4羽のシジュウカラの幼鳥の混群が一緒に歩き回っていた。</li> <li>・9/21 コスモス畑のそばの木にアリスイの姿があった。毎年この時期にこの場所で観察されている。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/9 江戸川の干潟の目印に立てられた4本の竹にそれぞれツバメがとまって、キュルキュルと鳴いておしゃべりをしているようでした。長旅の疲れをいやしていたのでしょう。</li> <li>・今まで気づかなかっただけなのか、今年はスズメの幼鳥を沢山見ました。市街地では電柱の穴によく巣を作っているようです。</li> <li>・7月下旬、松戸市花火大会直前の土手の草刈りで、キジの卵がだめになったと、鳥の仲間から写真を見せてもらった。その翌日キジのペアが卵を探しているだろう光景を見かけ心が痛んだ。</li> </ul>
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月、栄松寺の建物や周辺の電線にたくさんのムクドリ。上本郷第2小学校そばの屋敷林の下草を刈ったところにムクドリ、キジバトが3～4羽。</li> <li>・5月、南花島公園で4羽の鳥が旋回しながら上昇していた。上本郷第2小学校そばの屋敷林からウグイスの鳴き声。</li> </ul>
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドバトがいつも近くの畑で見られる。</li> <li>・夕方には畑の上にアブラコウモリが見られる。ツバメもよく見かける。</li> <li>・オナガが数羽で同じコースで見られる。</li> <li>・セミの鳴き始めが例年より遅い。数も少ない。</li> </ul>
36	昨年と比べ、見かける鳥の種類が少なくなりました。今までいなかったドバトを周囲の畑で見ました。

40	6月の初め頃、自宅でホトトギスの鳴く声が2、3日ありました。
43	松戸二丁目から角町にかけての坂川では、平成29年までの6月から9月の夏場に、都市部では貴重な存在となった「ハグロトンボ」が群生していました。その数は目視出来た範囲で40匹程の多数でした。ところが、平成30年には角町付近で数匹しか確認出来なくなりました。そして、平成31年でも角町付近で数匹が確認できた状況で、このままでは松戸神社周辺のハグロトンボは見る事が出来なくなるものと思います。ここ数年は坂川の水質が明らかに悪化しています。更に、松戸神社の陣屋橋の近くにある千葉大園芸学部方向から流れ込む雨水管からは（この雨水管は坂川に流れ込む）毎週定期的に、黄色の汚れた工場排水が大量に坂川に流れ込み、坂川の水質を悪化させています。
46	昨年まで見る事の出来た春木川のカワセミも、川が泥に埋まり見る事が出来なくなりました。止まり木が寂しそうに残っています。
50	今年は4~6月、イソヒヨドリが親単体、または幼鳥（確認したのは3羽）と連れ立ってマンション屋上でよくないていた。
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/3 千葉大園芸学部の林でシロハラが何羽もクッククッと鳴きながら追いかけてっこをしていた。旅立ち前に集結しているのだろうか？</li> <li>・4/13 柿の木台公園でアオジが囀っていた。</li> <li>・4/20 千葉大園芸学部でアカハラが囀っていた。</li> <li>・4/21 千葉大園芸学部でキビタキ、アカハラ、センダイムシクイ、エゾムシクイが囀っていた。これれは姿も確認した。松戸でエゾムシクイを見たのは初めてで感動した。オオルリの姿も見たが、囀りは聞かれなかった。キビタキ、アカハラ、センダイムシクイ、エゾムシクイの囀りは23日にも聞くことができた。</li> <li>・5/3 千葉大園芸学部でキビタキ、センダイムシクイ、ヤマガラ の囀りが聞こえた。4月下旬~5月上旬の早朝の観察は楽しい。柿の木台運動公園脇の檜の木を動き回るエナガの家族群を見た。雛が盛んに餌をねだっている姿がかわいい。</li> <li>・5/26 千葉大園芸学部でヤマガラ の家族群とシジュウカラの家族群を見た。シジュウカラが2組はいるようだった。6/8にもヤマガラ、シジュウカラの家族群をみた。</li> <li>・6/8 戸定公園の芝生で30羽ほどのムクドリの家族群の集団が賑やかに採餌していた。そばの桜の木にも群がっていて盛んに実をついばんでいた。・9/30 この秋初めてモズの高鳴きを聞いた。</li> </ul>
52	小金原6-9街区にて6/27 AM6:00頃ハクビシンを一瞬であったが視認した。（昨年【平成30年】5月頃より複数の人より目撃していたことを聞いた。小金原9丁目の民家に居ついているようだとの話もある。）
54	環境は年々悪くなっている様です。オオタカやチョウゲンボウも見られなくなりました。この環境調査が、松戸市の環境改善のお役に立つことを願うばかりです。
54	・國分川にはミシシippアカミミガメが多く、ウシガエル（声）も多い。
58	・ムナグロを集団で見られなかったが、数羽目に留まった。今年も矢切に立ち寄ってくれてうれしかった。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この半年フクロウの鳴き声の情報が入らなくなった。</li> <li>・近くの道路で夜、タヌキの親子をよく見かける。</li> </ul>
58	<p>休耕田、耕作放棄地が増えて、田畑が荒れて雑草が伸び放題になってきた。</p>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年ツバメが巣を造るガソリンスタンドがある。ご主人によると、今年は4/1に来て2組のつがいが営巣し、それぞれ2回雛を育てて、計20羽が巣立ちしたとのこと。</li> <li>・4/21 神明神社ではアオジやアカハラが旅立つ前に立ち寄り囀りをきかせてくれる。アオジは毎年越冬していたが、神社や周りの雑木林の藪が刈り払われたためか、今年は越冬に姿を見せなかった。春の囀りが聞こえないのではと思っていたが、移動の立ち寄り場所となっているらしく、4/21から23日にかけて連日、囀りが聞こえた。神社内3カ所で同時に囀りが聞こえたこともあった。</li> <li>・4/23 神明神社でエナガの幼鳥10羽ほどの群を見た。5/2には神明神社近くの斜面林でやはり10羽ほどの幼鳥群を見た。</li> <li>・隣のマンションに住む知人によると、庭のアジサイの下に伏せてあった植木鉢にシジュウカラが巣を造り、数日前に雛が無事巣立ったとのこと。(5/5談)</li> <li>・5/2 斜面林で2カ所からセンダイムシクイの囀りが聞こえた。神明神社の大きなタブの木にカラスの2巣があり、1つからハシボソカラスが飛び立った。</li> <li>・5/6 JR車両基地脇の斜面林からキビタキの囀りが聞こえた。</li> <li>・5/30 三矢小台公園でハシボソカラスの巣立ち雛を見た。神明神社ではシジュウカラの家族群が少なくとも2組木々の中を動き回っていた。6/4にも家族群を見た。</li> <li>・8月下旬になっても早朝のメジロの囀りが聞こえる。メジロはこの時期になっても繁殖するのだろうか？</li> <li>・9/30 この秋初めてモズの高鳴きを聞いた。例年より早い。早朝、家の前の電線にツミの早がとまって羽繕いをしていた。しばらくすると上空に飛んできたカワラヒワを追って飛び立って行った。59地区でツミを見るのは初めて。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネズミを公園の植栽や側溝で見かけました。</li> <li>・カラスがネズミを追いかけて時々つついていたが、逃げ切った。</li> </ul>

令和元年度調査員短信（後期）

地区	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カワセミのつがいを見た。図鑑で調べ、くちばしが黒いのが雄、赤茶色なのが雌だと納得。（1/24）</li> <li>・富士川の繁みにスズメとおぼしき小鳥を見たが、尾がスズメより長いことから図鑑で確認したところ、エナガではないかと。（1/30）</li> <li>・キンクロハジロの雌を見た。冠羽がないのが雌だと図鑑で確認。（2/1）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/10 坂川にて7羽のスズガモ。6羽が雌1羽が雄でした。徳州苑前の小さな田んぼに今年もタシギが来てくれました。（5羽）</li> <li>・1/22 カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホシハジロに会いました。それぞれ雄雌のつがい数羽ずつ、久々に賑やかな坂川でした。種類は違ってもけんかせず、穏やかな空間でした。</li> <li>・1/24 久々にオオタカに会いました。なかなかお目にかかれないので、うれしかったです。</li> <li>1/26 オオタカ2羽発見。別の鉄塔の頭頂部にとまっていた。流山方面に飛んで行った。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツバメを3/22に観察しました。いつもの年より10日早い飛来です。</li> <li>・カワセミを3/28に坂川で観察しました。2年ぶりです。</li> </ul>
4	<p>令和2年1月中旬から2月中旬にかけて、富士川のカモ類は全く姿を消した。これは鷹狩りの連中が来たためである。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>① モズ ～ 10/7 ♂1羽を初認。昨年同様出現数が少ない。以前のソングスポットで見られなくなり、5区内では多くても2羽のみ。</li> <li>②オナガ ～ 最大で≒20羽の群れを新松戸南小学校付～モクレン公園付近にて確認。</li> <li>③ジョウビタキ ～11/6 ♂1羽を今季初認。前年度は皆無（観察時間帯との mismatch?）でしたから、5区で1羽しか確認できないがホツとした。</li> <li>④ツグミ ～ 11/14 新松戸西小学校西側の畑にて1羽を今季初認、月末には6羽を確認。</li> <li>⑤カンムリカイツブリ1羽 ・ホシハジロ♀1羽 ～ 11/14 坂川放水路・差向橋付近で今季初認。カンムリカイツブリは12/27には坂川放水路・差向橋～主水大橋間にて5羽がばらけて存在。～～ 水鳥の到着順は例年、ヒドリガモが一番だったが。</li> <li>⑥タゲリ ～ 11/14 旭町付近の田圃に25羽が飛来、今季初認。2/24 ≒47羽を確認した以後は未確認。</li> <li>⑦ヒドリガモ ～11/16 坂川放水路・差向橋付近で2羽を初認、以降最大≒30羽と例年より少ない。3/26は9羽に。</li> <li>⑧ キンクロハジロ ～12/19 4羽を坂川放水路にて初認。今季は飛来数が少ない。</li> <li>⑨コサギ・ダイサギ・アオサギ ～ 11月にはアオサギ1羽を坂川放水路で2度視認するも、コサギ・ダイサギは10～12月は未確認状態。田圃や水路に水が無く、農薬・化学肥料で水が汚れて小魚・ドジョウが不在で採餌できない事が原因では? ⇒ 農家への水質改善策・冬水田圃の推奨は?</li> </ul>

- ⑩ヒバリ ～ 12/11 新松戸西小学校付近の田圃上空を2羽が囀りながら帆翔。「雨水」の2/19&2/20にも西部小学校近くの上空で囀りつつ飛翔。
- ⑪アカハラ ～ 12/19 アジサイ公園北西端、葉を落とした大きなケヤキの樹上から見下ろす2羽を今季初認。
- ⑫ユリカモメ ～ 12/19 坂川放水路・金切橋付近にて2羽が飛翔するのを今季初認。
- ⑬ジョウビタキ ～ 11/6 1羽を確認、♂♀各1羽を確認するも数が少ない。 ⑭イソシギ ～ 10/2 坂川放水路・仲道橋付近にて今期初認。以後、2月末まで河川敷のコンクリート堤防水際を移動しながら採餌するのが見られたが、3月は未確認。
- ⑮シロハラ ～ 2/28 漸く1羽を初認。
- ⑯イワツバメ ～ 3/26に坂川放水路・差向橋付近で8羽を初認。
- ⑰ツバメ ～ 3/27 新松戸西小学校付近にて今期初認。
- ⑱オオバン ～ 昔はあまり見かけなかったが今や坂川放水路の常連さん。11月には最大≒30羽。
- ⑲カルガモ ～ 本来年間を通して見られるはずだが、10月中は不在続きで11月中旬以降は見られるようになった。
- ⑳カイツブリ ～ 12/19 今季初認。
- ㉑シメ・アトリ・カワセミ 猛禽類 ～ 今季未確認！
- ㉒ノウサギ (≠「ニホンノウサギ」) ～ 12/19 あじさい公園でアカハラ・シジュウカラ・カワラヒワを見た後、近くの農道を歩いていると約20本の栗の木が生える栗畑(新松戸西小学校前)の外周部で珍しく耕運機が稼働中。耕運機のエンジン音と振動で驚いたのか、突然、茶色の『ノウサギ』が飛び出し、栗林の中央部を縦断後に≒4.0mの農道を横断、反対側・民家の脇を走り抜け、手入れのされていない梅林+小さな荒地へ突進して姿をくらました。こちらもビックリ！大きな農地や田圃が広がっている場所とは言え、まさか？ウサギさんに出会えるとは。江戸川から≒1km、坂川放水路にも近く、台風で荒れ果てた江戸川河川敷から急遽引越してきたのかも。数年前、付近の畑でタヌキがトウモロコシをもぎ取るところは見たが、ウサギは初見！
- ㉓ギンヤンマ・アキアカネ・トノサマバッタ ～ 10/7に最終視認。アカタテハ・モンシロチョウ・モンキチョウ・ヤマトシジミ・エンマコオロギ・ツリアブ・イエバエ・キンバエ・セイヨウミツバチ ～ 12月中旬まで健在、以後2月中旬まで確認できず。ツリアブだけは通期で見られた～暖冬？
- ㉔サザンカ・スイセン ～ 10月初旬開花。両方とも3月末まで咲き続け、コスモス・アカツメクサ ～ 12月中旬まで見られた。
- ㉕セイヨウタンポポ ～ 1月初旬まで開花が見られ、菜の花・ウメ・ツバキ ～ 2月初旬から咲き続けている。
- ㉖ツクシ ～ 2/19 今期初認、上空でヒバリが囀るのを聞きながら春の訪れを実感！
- ㉗ソメイヨシノ ～ 10/7 狂い咲きが見られた(台風で葉をおとされたため?) 3/20頃、各地にて満開。

	<p>⑳オオイヌノフグリ ～ 暖冬のせいか10月からこの3月まで通期で咲き続けている。</p> <p>㉑ナズナ・ホトケノザ・ヒメオドリコソウ・・スミレ・タネツケバナ・ハルノノゲシ・カラシナ等が足元に咲き競う中、例年よりも早い2月中旬にモンシロチョウ・ナミテントウの出番がやって来た。</p> <p>㉒コブシ・ハクモクレン・シモクレン・レンギョウ・ジンチョウゲ・ハナモモ等 ～ 3月中旬、「樹の花」が咲きだした。</p> <p>㉓ミシシッピーアカミミガメ ～ 2/19 坂川放水路・コンクリート堤防で日向ぼっこをするのが見られた。 以上</p>
6	<p>・八番街前の新坂川でカワセミをよく見かけ、魚をくわえる囃も時々見かけた。</p> <p>・ウグイスの地鳴きも時々聞いていたが、今年初めて初鳴きを3月末にきいた。</p> <p>・ここ2.3年庭に姿を見せていたアカハラがマンション入口のガラス壁にぶつかったのか命をおとした姿に会ってしまった。</p> <p>・ツバメの初見は3/27</p>
6	<p>・イソヒヨドリが3月末にマンションの立体駐車場の上やビルの上でさえずっていました。4月中旬には姿が見えず、繁殖は不明です。</p> <p>・式番街緑地でツミの声が聞こえ姿も一瞬見えました。例年より早いかもしれません。</p>
7	<p>①モズ ～ 10/2 ♂2羽今季初認。</p> <p>②アオサギ1羽・ダイサギ4羽 ～10/2 珍しく？新坂川・大谷口新橋付近に飛来。</p> <p>③イソヒヨドリ ～ 10/8 新坂川・水琴橋付近で1羽を今季初認。</p> <p>④ジョウビタキ ～ 10/15 ♂1羽を今季初認。</p> <p>⑤ツグミ ～ 11/21 東漸寺境内で1羽今季初認、以降7区内でよく見られた</p> <p>⑥チョウゲンボウ ～ 12/14「関さんの森」上空を飛翔。</p> <p>⑦シロハラ ～12/20 関さんの森にて2羽今季初認。</p> <p>⑧キクイタダキ ～ 12/20 東漸寺境内にて5羽を今季初認。 2月に3回視認、</p> <p>2/25 には10羽と遭遇するもその後は未確認。</p> <p>⑨ルリビタキ ～ 12/20 東漸寺境内にて2羽を今季初認。2月中は22日まで綺麗な♂を3回見られたがその後は未確認。</p> <p>⑩エナガ ～ 12/20 東漸寺境内でエナガ≒20羽+メジロ・シジュウカラ・ヤマガラを含む大混群に遭遇。ビックリ&amp;大喜び！幼稚園も静かで境内にも人出の少ないことが幸いした。</p> <p>⑪シメ ～ 1/13 東漸寺境内にて1羽を今季初認。</p> <p>⑫オオタカ ～ 2/25「関さんの森」上空で1羽を初認。</p> <p>⑬ウグイスの初鳴き ～ 2/25 今季の初GET！</p> <p>⑭トラツグミ ～ 3/3 関さんの森にて1羽を今季初認、ラッキー！</p> <p>⑮ツバメ ～ 3/27 新坂川・水琴橋近辺にて今季初認。</p> <p>⑯10/2 マメアサガオ・コマツナギ・ヒガンバナが咲く中、アオカナブンが飛び、 10/8 には ネム・サルスベリに台風の影響で狂い咲きが見</p>

	<p>られた。</p> <p>⑰11/21 ピラカンサが赤い実をつけ、イヌタデ・ツワブキが咲くところでは アキアカネ・アカタテハ・ヤマトシジミ・モンシロチョウ・ツリアブ・イエバエ・ユスリカ・オニグモ・ジョロウグモなどが元気に活動。</p> <p>⑱12/3 ツワブキ・ホトトギス・イヌタデ・キバナコスモス・アカザ・アカツメクサ・ムラサキカタバミなどが咲く中、足元ではクロアリが歩き回り、ヒカゲチョウ・モンキチョウが蜜を求めて飛び回っていた。</p> <p>⑲2月初旬にはツバキ・スイセン・カラシナ・オオイヌノフグリ・ホトケノザ・カタバミなどが咲き乱れ、2/11 ウラギンシジミ・ナミテントウ・イエバエ・ユスリカが見られた。</p> <p>⑳3/3 キチョウ（越冬）・モンシロチョウ・ツリアブ・ミツバチ・イエバエ・ツリアブが見られた。キチョウは蜜を吸うためにクリスマスローズの花の中に入り込み、確認するのに手間取った。この日にはウメ・ハナモモ・ジンチョウゲ・ミツバツツジ・カラスノエンドウ等が見頃。</p> <p>㉑3/13日にはシダレザクラ・ユキヤナギ・コブシ・アケビ・キイチゴも見頃を迎えた。 以上</p>
11	<p>・以前は11区の水路や田んぼでタシギをよく見かけたが、今年は一度も発見しなかった。水路の水量や田んぼの耕し状態が微妙に影響するのかもしれないが、他の地区ではどうだろうか。</p> <p>・タゲリは5区や11区でよく見かけるが、今年11区に大きな集団(38羽)が定着していた(稲荷神社の東側の田んぼ=ムナグロが来る場所)。私が観察していて勝手に想像するのであるが、冬季の田んぼで放置させている場所にはタゲリが定着するのかもしれない。なぜなら、水たまりが出来るので、採餌や水浴びができる事と凹みに隠れる事ができるからではないだろうか。2月後半、耕された後タゲリは認められなくなった。あるいは、暖冬のため飛び立ったか。専門家の意見を聞いてみたい。</p>
15	<p>小金原6-13街区の芝地にて2/3AM8:15頃、ドバトが6羽群れていた。その中の一羽の体半分が純白であった。体半分とはいえ純白のハトを観察したのは初めての経験である。</p>
18	<p>1/3 馬橋(旧馬橋支所付近)の廃屋前の空地に野ウサギがいた。ウサギであることは間違いないが、ペットが逃げ出した可能性有り。但し、毛色は茶又はグレイで白色ではなかった。</p>
22	<p>・10月23日:約150羽のスズメが田んぼの側の電線にとまり、時々田んぼに降りて採餌していた。</p> <p>・11月5日:コチドリ(イカルチドリかもしれない)が6~7羽江戸川河川敷のグラウンドの上を飛び回っていた。</p> <p>・12月13日:スズメ100羽、ムクドリ20羽ほどが急に飛び立ったと思ったら、チョウゲンボウが出現した。</p> <p>・年明けに古ヶ崎浄化機場周辺の樹木が伐採され、芦原も一面刈り取られた。冬期にいつも(H26-H30)みられたベニマシコの姿がなかったのは芦原が刈り取られたからかもしれない。毎年ハシボソガラスが巣を作っていた木も伐採された。3月27日この木から200mほど離れた江戸川沿いの木に巣がありハシボソガラスが座っていた。いつもの木が伐採さ</p>

	<p>れたのでここに作ったのかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月から古ヶ崎浄化機場周辺にアヒルが2羽棲みついている。どこから来たのだろうか？</li> </ul>
29	<p>昆虫、鳥など見られる種類が少なくなっているようです。</p>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風15号、19号と関東を襲った台風としては観測史上最強クラスであった為、江戸川河川敷は氾濫し木々の倒木や、そこに生棲していた昆虫、小動物、植物が流され、野鳥の隠れる場所を失った。元の自然に戻るには数年かかるだろう。</li> <li>・つばめ、ウグイス共に10日程早かった。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10/12 深夜巨大台風19号が松戸市を通過。翌朝江戸川河川敷は濁流にのみ込まれ海のようになっていました。上流から流木に乗って、ダイサギ、カワウ、カラスタヌキまでもが身動きできずに流されて来ました。幸いキジの若鳥達は土手上に逃げ3羽無事を確認しました。水が引いた後土手下を歩いてみたら、大木までもが流され大量のプラスチックごみが溜まりメチャクチャになっていて愕然としました。地面に覆いつくされたアレチウリがすっかり消え江戸川の川幅が広がっていました。</li> <li>・11/7 ふれあい松戸川上空をミサゴがゆっくりと旋回していた。</li> <li>・12月～3月 昨年は見つけることのできなかったホウアカ、アカハラを今年は見つけることができた。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月10日：アリスイとモズがクルミの木でバトルをしていた。アリスイはこの付近で越冬したと思われ、2月、3月にも姿がみられた。</li> <li>・3月27日：ホオアカが柳の梢で囀っていた。まだあまり上手ではなかったが、江戸川でホオアカの囀りを聞いたのは初めて。</li> </ul>
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年9月に聞くモズの高鳴は、この秋は10月下旬になった。</li> <li>・秋は夕日の沈む頃、アブラコウモリが目立つ。</li> <li>・昼頃にオナガの群れが毎日のように東から西に移動。(10～11月)</li> <li>・オンブバッタを多数見かける。(9～10月)・300羽ほどのムクドリ</li> </ul> <p>の群れは夕方に電線に集まりやがて矢柱方面へ向かう。数日これを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察できる鳥などの数が例年になく少ない。(近くで始まった住宅建設も例年になく多く、またのら猫も増えている)</li> </ul>
36	<p>この調査を始めて5年ほどになりますが、今回初めてウグイスの声を聞くことができませんでした。当地区も住宅化が進み、鳥が棲むには厳しい環境になってきたようです。</p>
46	<p>春木川・国分川の改修・修景工事が終わってから10年近くになるでしょう。広がった河川敷に野鳥が戻り、素晴らしい状態になりましたが、以降一度も清掃が行われず、汚泥も溜まり自転車、バイクなども捨てられたままです。観察できる野鳥の数も減ってきました。</p>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月26日：大雨の翌日千葉大園芸学部の林に行くと、エゾビタキ、アオバト、ムシクイ sp の姿がみられた。この秋初めてツグミも確認できた。</li> <li>・3月6日：柿木台公園でウグイスの囀りが聞こえた。まだホケホケホケキョだけで上手ではなかった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月13日に浅間神社、3月31日に千葉大園芸学部の林から「キョロン、キョロン」とアカハラより柔らかいトーンの囀りが聞こえた。北へ帰る前のシロハラの囀りと思われる。</li> <li>・3月31日：いちご公園のケヤキにカラスの巣があり、ハシボソガラスが座っていた。</li> </ul>
54	<p>両岸の雑木林が伐採され産業廃棄物置き場や駐車場になり、野鳥の棲息場所が減ってきたようです。私達のこの環境調査が、松戸市の自然環境の回復に少しでも役に立つことを望んでいます。</p>
58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に鳥の数は少ないが、斜面林とは対照的に開けた田畑が広がり、猛禽類の「ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオタカ」が餌場として飛んでいる</li> <li>・今年初めて中矢切の斜面林でフクロウを確認した。</li> <li>・矢切地区に流れている坂川でカモ類の「ヒドリガモ」が例年になく少なく、かわって「カンムリカイツブリ」が好く見られた。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月8日：十数羽のオナガの群れに若鳥（頭がごま塩で尾が短い）が混じっていた。</li> <li>・12月22日：神明神社の境内でキセキレイが採餌していた。59地区でキセキレイをみたのはH26年に観察開始してから初めて。</li> <li>・12月27日：雨上がりの公園のケヤキの梢でシジュウカラが囀っていた。冬なのに気が早い？</li> <li>・3月3日：神明神社で「ホーホケ、ホーホケ」とウグイスの下手な囀りが聞こえてきた。</li> <li>・3月3日：神明神社の杉の木の巣にハシボソガラスが座っており、もう一羽が枝をくわえてやってきて座っているカラスに渡した。巣作りの最中と思われた。</li> <li>・3月15日：前日のみぞれが止んで晴れた朝に神明神社に行ってみた。シジュウカラやヤマガラが囀り、アオジもまだ下手ながらも囀りを聞かせてくれた。クイタダキが2羽スギやサクラの梢を飛び回っていた。59地区でクイタダキをみたのはH26年に観察開始してから初めてだった。</li> <li>・3月25日：鴻之台公園のケヤキにカラスの巣がありハシボソガラスが座っているのに気がついた。3月29日までは巣に姿があつたりなかったりだったが、30日以降はずっと巣の中に座っていた。</li> <li>・3月27日：いつもツバメが巣をつくるガソリンスタンド近くをツバメが飛び回っていた。</li> </ul>
61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月 タヌキを数年ぶりに見た。また、暖かい日にウグイスが鳴く練習を始めた。</li> <li>・10月 ジョウビタキを見た。白いコムドリを見た。</li> <li>・3月 ツバメ・コチドリが来てくれた。</li> </ul>
62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月 ジョウビタキの写真が撮れた。</li> <li>・11月 ゴイサギの幼鳥の写真が撮れた。</li> <li>・キンクロハジロの数、観察回数が少なくなった。</li> <li>・3月 ツバメが今年も来た。</li> </ul>

## ○おわりに

平成 11 年度から始まった「生きもの調査」は、平成 17 年度から「地域環境調査」と形を変えて、平成 21 年度まで 5 年間の調査を行い、平成 23 年度より調査を再開し、平成 30 年度も報告書としてまとめることができました。

ご協力をいただいた調査員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この調査は市民の皆さんによるボランティアで実施しており、調査員の知識や経験、また各調査地区における調査員の人数や、調査頻度、調査場所、時間帯、天候等によっても観察結果に差が生じると考えられます。

そのため、今回報告された結果において、一概に報告の少ない地域が必ずしも野鳥が少ないとは判断できず、前後の調査結果も踏まえて傾向を把握していく必要があると思われます。少なくとも今回報告のあった野鳥が存在する、若しくはそれ以上の野鳥が存在する可能性は否定できないと考えられます。

松戸市環境計画で掲げる「めざすまちの姿」の創造は、調査員や環境ボランティアの方々にとどまらず、そこに住む市民一人ひとりが地域の環境について知り、関心を高め、自ら行動することから始まります。

この調査が多少なりとも足掛かりとなれば幸いです。

※調査結果は、後日、松戸市のホームページからもご覧いただけます。

市ホームページのトップページから【ホーム ⇒ くらし ⇒ 環境 ⇒ 松戸市地域環境調査 ⇒ 地域環境調査結果】と進んでください。

アドレス：

[https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoushizenkankyo/tiiki-tyouasa/chiikikankyou\\_kekka.html](https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoushizenkankyo/tiiki-tyouasa/chiikikankyou_kekka.html)



小松調査員撮影

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙を使用しています。

総合評価値 90

古紙パルプ配合率：70%

白色度：72%







---

## 松戸市地域環境調査報告書

令和 2 年 9 月

---

○発行 松戸市

〒271-8588

松戸市根本 387 番地の 5

TEL : 047-366-1111

URL : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

---

○編集 松戸市 環境部 環境政策課

TEL : 047-366-7089

FAX : 047-366-8114

---

イラスト提供 : 公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和 2 年 9 月 8 日発行